

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	学習支援レインボー 玉島教室			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 25日		～	2024年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 25日		～	2024年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士がいることで、言語療法を行うことができ、保護者からの発達に対する疑問に、アドバイスを行うことができる。	構音障害のある児童を中心に、言語発達に遅れのある児童に対して言語聴覚士が言語療法を行い、それ以外の児童に対しても疑問や不安に対して都度アドバイスなどを行っている。	保護者に言語聴覚士がいることでどんなことができるかを広く周知し、気軽に疑問や不安を相談していただけるようにしていく。
2	在籍する児童の年齢幅が年長から高校生まで広く、学校では関わるのが少ない年齢層との交流によって、社会性やコミュニケーション能力を育むことができる。	年齢が離れていても、積極的な交流を促すことで、年齢が低い児童は距離感や言葉遣いの練習を、年齢が高い児童は年下の子のお手本となるような行動を促している。	集団活動や自由時間に積極的に児童間の交流を促していき、それぞれに良い刺激になるように職員が間に入りながら、活動を行っていく。
3	保護者や学校、相談支援事業所との会議を積極的に行うことで、関係機関での連携を強めている。	保護者からの要望や情報提供によって、都度各連携機関と連絡を取り会議を行うことで、問題が起きた時に素早く対応できるようにしている。	保護者からの情報提供だけでなく、何もなくとも話を聞けるように各所との関係構築を行い、連携の強化を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員の余裕がないこと	職員の急な体調不良などがあると、職員の不足が起きやすく安定した支援が行えない懸念がある。	募集の継続と職員の体調管理の徹底。 また、職員のレベルアップのための勉強会などの頻度を増やしていく。
2	療育関係の教材、グッズにやや偏りがあること	現在の児童の年齢層から、教材は小学校生向けのものが多く、中高生向けや未就学児向けの教材がやや少ない。 また、集団での活動では同じ時間に行う都合により、中高生には簡単になることがままある。	不足している年齢層の教材を作る、買うなどしてそろえる。 集団活動では、年齢や能力によって、難易度を調整できるような課題を設定していく。
3	事業所内での活動が多く、外部との交流が少ないこと	SSTや公園での運動などは取り入れているが、まだ外部との交流は少ない状況。	今の取り組みは継続しつつ、お買い物体験などの事業所外での活動を企画、実施していく。